

大学におけるキャリア教育の教育評価 ～ナラティブ聴講における意識変容に着目して～

牟田 京子

要 旨

本学では、1年次履修科目に看護入門が位置づいている。看護入門は、本学看護教員や本学卒業生を特別講師に招き、職業選択までの過程や職務内容、将来設計などの語り（ナラティブ）を聴講し、看護職におけるキャリアデザインを考えてもらうことを狙いとしているが、実際に聴講の前後でどのような学習効果が得られるかが課題である。そこで、聴講前後で評価を行い、ナラティブ聴講における学生のキャリア選択の広がりを明らかにすることを目的とした。研究方法として本学看護学科学生1年生で同意の得られた36名の振り返りレポートの記述内容における分析と、講義前後に養護教諭・助産師への関心度について、1項目からなる質問表により、聴講前と聴講後をそれぞれ5段階で評価した。前後の評価は、ウィルコクソンの符号順位検定を用い1%未満を有意水準とした。養護教諭と助産師の評価結果は、ともに得点が優位に上昇した。講義後レポートの分析は、レポートの全文をテキストマイニングで分析し、その結果を補完的に用いKJ法を実施する混合研究法を採用した。学生は、第三者の「語り（ナラティブ）」から、看護職としてのキャリアは1つではないことを知り、キャリアステップへの道に至るまでの経過やルートの知識を得、キャリア選択の広がりにつながった。ナラティブ聴講によるキャリア選択の広がりや、学業に向き合う姿勢を省察し、看護職に必要な能力について考えるきっかけとなり、近い将来、看護職に従事する看護学生としての在り方を考える重要な機会であることが示された。

キーワード：ナラティブ、キャリア教育、テキストマイニング、混合研究法、意識変容

I はじめに

近年、キャリア教育は大学の初年次教育として位置づけられているが、本稿で研究対象とした看護入門は、このキャリア教育に位置づく。文部科学省はキャリア教育の定義を「仕事・職業の世界への洞察・スキルの準備、職業人とのコミュニケーションおよび協働体験、自己の進路・職業への気づき・探索・選択などを行うことを支援するプログラム・カリキュラムの体系であり、これらを通して彼・彼女らの多様な生き方や価値観形成を促す活動である¹⁾」としている。

1992年「看護師等の人材確保の促進に関する法律」（以下、「本法」と省略する）が施行された。本法は、病院等、看護を受ける者の居宅等看護が提供される場所に、高度な専門知識と技能を有する看護師等を確保し、国民の保健医療の向上に資することを目標としている。本法をきっかけに、看護基礎教育の大学化は急速に加速し、2014年度には3.3校に1校が看護学科を設置する時代となったのである。また、医療の高度化・専門化に対応するため、看護系大学

院の設置や専門看護師・認定看護師といった看護のスペシャリスト育成が求められている。看護系大学、看護系学生が急増する一方でドロップアウト²⁾する学生も少なくなく、今後もこのような学生の増加が懸念される。樋口健はドロップアウトする学生が増え続ける原因を次のように述べている。³⁾

国公立を問わず共通してみられるのが、「勉強が想像以上にきつく、つらい」という学習上の理由である。ますます高度化する看護・医療に関する専門的知識の修得に加え、学修の4分の1から臨床実習により構成され、合間に多数のレポートが求められる。こうした厳しい教育訓練が4年間つづく。また看護大学の先生方に実際にうかがうところによれば、現場で多様な患者と直に接する経験は、看護職の素晴らしさを味わえる一方で、精神的な負担になることがあるようだ。看護職に対する意識の曖昧な学生や、厳しい教育・訓練に対する「覚悟」ができていない学生は、想像以上の過酷な日々にとすると悲鳴を上げてしまうと推察される。そうした中で、自分の「進路に対する揺らぎ」が

生じるのか、「他の職業につきたい」、「やりたいことが変わってきた」と将来に対する気持ちの変化を示す声も多数あげられている。

樋口が指摘する「進路に対する揺らぎ」は、看護職に対する意識が曖昧であるだけでなく、確固たる夢を抱いているものにも該当すると考える。例えば、助産師になりたいという夢を抱き、看護系大学入学したものの、助産師教育については学士課程において選択制が実施⁴⁾されており、本学においては入学定員の約一割の学生しか選択できない現状にある。助産師になりたいという自分の夢が達成できないかもしれないという不安に駆られた時に「進路に対する揺らぎ」が生じる可能性があるのではないだろうか。同時に現代の若者は、自信や意欲を支える自尊感情が低いという特徴があるが、この自尊感情は学業達成の要因と正の相関があることが一部の研究において知られている。⁵⁾ 下村は自尊感情等に配慮したキャリアガイダンスの必要性を述べており、自尊感情の回復にキャリアガイダンスを含めた情報支援の有効性を論じている。⁶⁾

本研究では、1年生履修科目看護入門で実践したナラティブ聴講により多様なキャリア選択の道があることを情報提供し、キャリア選択の可能性を広げることを目的として実施した。具体策として、学生のキャリア選択の広がりが見られたかを関心度調査し、何が関心度に影響を与えたかを調査するため、講義後レポートを分析し、その学習効果を明らかにした。学生の意識変容を調査することは、初年次教育に位置づく看護基礎教育の在り方を考え、改善や発展を支える一助となると考える。

Ⅱ 研究方法

1. 調査期間

2017年4月～2017年6月に実施した基礎教育科目看護入門の受講者に対し、特別講師のナラティブを聴講する講義を4月21日（看護師）、4月28日（養護教諭）、5月19日（助産師）、5月25日（開業助産師）、5月26日（保健師）、6月2日（認定看護師）、6月16日（保健師）の計7回実施した。講義のスケジュールは図1の通りである。

2. 対象者

本学の看護学科学生1年生37名のうち、研究協力の同意が得られた36名を対象とした。

3. 研究デザイン

- 1) 講義前後の意識変容に関する関心度調査
量的研究（リッカート尺度によるWilcoxonの符号付順位検定を実施した）
- 2) ナラティブ聴講後の振り返りレポート
量的研究、質的研究の混合研究法（Mixed Methods Research: J. W. Creswellによればミックス研究法）

4. 調査方法

- 1) 関心度調査は、2つの専門職（養護教諭・助産師）の講義時、受講生全員に配布し、受講前に「現在の関心度」について、リッカート尺度を用いて（「大変関心がある」「関心がある」「どちらでもない」「あまり関心がない」「まったく関心がない」）行った。得られたデータのうち、研究承諾が得られたものを分析データ対象とした。関心度は「大変関心がある」を5点、「まったく関心がない」を1点とし、5点から1点の点数で評価した。1点に近い数値ほど関心度が低く、5点近い数値ほど、関心度が高いことを表す。また、調査内容は、受講前・受講後共に同内容とした。

月 日	内 容	狙 い
4月14日	講義の概要説明、看護専門職業人とは 保健師助産師看護師法における各専門職定義と職務	傾聴について考えるためコーチング手法を用いてペアワーク 対話を取り入れたグループディスカッションを実施し傾聴の実践を行う
4月21日	看護師の役割 看護の仕事、看護活動の場、看護職に求められること	前回講義のフィードバック（リフレクティブ・ラーニング） 倫理観について考える（ミニョネット号事件を題材に討論） 公平と平等について考える
4月28日	学校現場で活動する養護教諭とは 養護教諭資格取得までの道のり	ナラティブの聴講 リフレクティブ・ラーニング
5月19日	助産師の役割 助産師としての生涯設計	上記同様
5月25日	地域で活動している助産師、いのちを育む助産師とは 母子のいのちを守る現場での助産師活動	上記同様
5月26日	保健師の役割 保健師としての生涯設計	上記同様
6月2日	認定看護師としての役割 高度専門病院における認定看護師の活動と役割	上記同様
6月9日	発表準備	リフレクティブ・ラーニング
6月16日	地域住民の健康とくらしを守る保健師とは 地域住民の健康とくらしの見つめ方 看護専門職業人としてのわたしの出発（個人発表） テーマ：私が目指す看護者像について	ナラティブの聴講 ※リフレクティブ・ラーニングは後日A3資料配布にて実施した

図1 講義のスケジュールと狙い

- 2) 受講後、振り返り学習として学生各自にレポート課題として与え、後日指定した日に書面あるいはMoodle (e ラーニングプラットフォーム) での電子媒体にて回収した。レポート内容はA4用紙半頁以上で自由記述するように指示した。回収された学生レポートの中から、関心度に大きく変容が見られた学生3名をそれぞれ抽出し、キャリア選択の広がりに影響を与えた要因を調査する。

5. 分析方法

本稿では、ミクロとマクロの視点から現象を立体的に理解する方法論としての混合研究法を用いた。一般的に1つの研究目的を達成するためには1つの方法論を用いて分析していくが、それぞれの研究方法にはメリットとデメリットが指摘されている。抱井・亀井⁷⁾は、「看護研究の対象は、一家族・一個人ごとに個性や特性があり、数や点数といった量的データだけでは説明しきれない部分が出てくる。質的データで補足することで、現象をリアルに表現できるようになり、質的データは量的データで補足することで、個人の経験がどの程度一般化できるものなのかを判断できるようになる」と述べている。本稿では、関心度の意識変容に関する関心度調査はリッカート尺度を用い、ナラティブ聴講前と聴講後に学生自身が評価を行い、聴講前と聴講後のリッカート尺度の比較を行った。データ分析はWilcoxonの符号付順位検定を用い、前後比較研究を実施した。統計ソフトはIBM SPSS Statistics 24を使用した。振り返り学習としてのレポートの分析には、変容を評価する方法として、テキストマイニングとKJ法を用い混合分析し、新たな法則性や知見を得ることを試みた。なお、テキストデータの分析は、テキストマイニングのソフトウェア「ユーザーローカルテキストマイニング」を用いた。

ユーザーローカルテキストマイニングは早稲田大学の研究をもとに生まれた大量の文章を定量的・定性的に分析・可視化することが可能なクラウド型のソフトウェアである。テキストマイニングの分析手法は主に①テキストデータの数量化、②統計解析、③分析結果の視覚化の3つから成り立っている。テキストマイニングの限界は、テキストデータのもつ曖昧さであることが指摘されているため、本稿では、テキストマイニング分析で文章を数量化した後、高スコアを示した語を指標としながらKJ法で分析を試みた。KJ法は、質的調査の分析手法として知られており、断片的な情報の体系化に有効とされる一方、研究者の経験や主観によって分類・解釈を行うため、研究者の力量や関心によって得られる結果が違ってしまいう可能性があるというデメリットが指摘されていた。そこで本稿では、研究者の力量を問わず、一定の結果が得られる手法とし

て混合研究法を採用した。

ナラティブを聴講し、関心度の変化が顕著であった3名の学生のレポートを内容の意味内容を変えずに1文節化し、テキストマイニングで個々に分析した。得られた結果の中からスコアの高いものを抽出した【養護教諭: Y01 / コミュニケーション能力・傾聴・価値観, Y02 / コミュニケーション能力・応急処置・情報発信, Y03 / 傾聴, 押し付け, 外国】, 【助産師: J01 / 乳房・母乳・妊婦, J02 / 戸籍・虐待・分娩, J03 / 考え方・興味・教科書】。スコアが高いほど、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。次に個々の分節化したデータを3名分まとめて再度テキストマイニング分析し、スコアの高いものを抽出し、データから得られた【養護教諭: コミュニケーション能力, 傾聴, 価値観】, 【助産師: 虐待, 分娩, 母乳】の高スコアワードをKJ法の分類時の指標とし、研究者の経験や主観を可能な限り排除し、現象を立体的に理解することを試みた。

レポートから得られたデータは、川喜多(1997)が考案したKJ法の手順に基づいてグループ分けを行った。また、本稿において、独善的な質的研究にならないようにするため、田中(2011)によって提示されたKJ法評価基準⁸⁾に準拠し、テキストマイニング分析で抽出された高スコアワードに依拠しながらラベルづくり、グループ編成、図解化、叙述化の手順で行い解釈のプロセスをオープンにした。1つのラベルには、1つのメッセージが読み取れるデータを入れ、養護教諭のナラティブを聴講した学生のレポートから合計で22枚、助産師のナラティブを聴講した学生のレポートから合計で63枚のラベルを作成した。次に、ラベル内に込められた調査対象者の心の変容を読み取り、心の変容に共通性のあるラベルを2段階でグループ編成し、レポートの中に含まれるキーワードを抽出する作業を行った。この時点で十分に解釈が可能であると判断し、グループ編成を終了した。最終的に養護教諭は10のラベルから3つの表札、助産師は18のラベルから5つの表札に集約することできた。

次にこれらのグループを解釈可能な形に図解としてまとめ、それを文章化して解釈を行った。図解化は、川喜多(1997)で示された、統一ルールを使用する。尚、グループ編成には田中(2011)を参考に川喜多(1997)の核融合法(核融合法とは全体感の把握→殺し文句の作成→家庭懇談会→短歌作り→化粧直し→清書の手順を踏む方法である)を用いた。

6. 倫理的配慮

同意説明書には、この研究への参加は任意であること、同意を拒否しても成績評価には全く影響しな

いことを記載した。同意説明書は口頭で研究の趣旨を説明し、同意書への署名をもって同意とみなした。なお、分析に使用するレポートは、その後の共有（リフレクティブ・ラーニング）で使用するため氏名の記載を行うが、データには番号を付け匿名化し、発表において個人を特定できる内容は一切含まないこと、取得したデータや個人情報には研究目的以外には使用しないことを説明した。

Ⅲ 研究結果

1) 講義前後の意識変容に関する関心度調査

ナラティブの講義は看護師・養護教諭・助産師・保健師・認定看護師の聴講を実施したが、関心度調査を実施したのは養護教諭と助産師だけであったため、今回はこの2つについて分析・報告する。関心度アンケート養護教諭と助産師ともに36名の回答があり回収率は100%であった。関心度調査は各項目の平均値を計算し、ナラティブを聴講前後の結果を比較した。データ分析はSPSS statisticsによるWilcoxonの符号付順位検定で比較した（有意水準1%）ところ、2つの専門職（養護教諭・助産師）共に有意差が認められた。

2) 受講後の学生自身の変化

以下に2つの専門職それぞれの表札・ラベルの名称と説明を示す。表札は【 】、ラベルは《 》内に太字で示し、学生の記述内容は「」で、講師が学生に語りかけた内容については『』で示す。

(1) 養護教諭：職業選択の広がりに影響を与えた気づき

①【A. 養護教諭に求められる資質は看護師にも求められる資質と共通する】の項目において、看護を学ぶ看護学生にとって、当然求められるような対人関係に関する資質を共通項目として分類した。《A-1. コミュニケーション能力》は、対象患者であれ、子どもであれ、人とかかわり援助・サポートを行っていく上で、良好な関係性を形成・維持していくために必要である対人能力を指す。コミュニケーション能力について《A-5. 養護教諭と看護は密接に関係する》と、両者の資格に求められる資質の共通性を見出している。コミュニケーション能力を高めるためには《A-3. 傾聴する力》《A-4. 悩みを相談できる雰囲気づくり》が大切であり、相手の間違った考え方に対しても《A-2. 価値観を押し付けない態度》が重要であり「自分の価値観をおしつけず、自分で気付けるように対応する」ことの大切さを感じていた。学生が生活する大学という環境は同質性の強い環境であるが、このような環境の中で生活していると気づきにくい異質性に目を向けることの重要性を

感じたようである。

②【B. 今まで知らなかった、見えなかった養護教諭の職務と視点、そこから得た学び】では、《B-1. 知っているようで知らなかった》《B-2. 養護教諭の職務内容》に対し「校内の巡視や環境整備もされていて」「修学旅行では夜中も起きておかないといけない」「こんなことまでしないとイケないのかととても驚きました」「評価しない立場という言葉は看護者になるものとして重要なことだと感じました」など、学生の経験・視点から見た養護教諭の姿と実際の職務内容の差に驚きを感じた声を共通項目として分類した。学生は、養護教諭に対するイメージとして「いつも話を親身になって聞いてくれたりしてお母さんのような存在」であったと表現し、忙しいというイメージはもっていなかった。養護教諭は『学生に忙しい姿をみせることで、遠慮させてしまう。遠慮からくる相談の躊躇を起こさせないように、忙しくないように見せている』と語り、学生が今まで見ていた養護教諭の姿は、養護教諭の配慮により“見せられていた姿”であったことに気が付いた。

③【C. 自己への課題】として「サークルやボランティア活動に積極的に参加し、より多くの価値観に触れ、自分の考えを深めながらコミュニケーション能力と傾聴を身に付けていきたい」と《C-1. スキルを高める》ことの必要性を感じている。講師の話が多様性を考える内容であったため「外国の患者さんが入院してきたときのために語彙能力を高めていこうと思いました」と、多文化共生の視点から思考している姿が見えた。自分に必要なことは、異質性に触れることや、難しい言葉を平易な言葉へ変換する能力を養うことであり、そのためには、ボランティアやサークル活動を介し、地域参画をしていくことの必要性を感じる学生もいれば《C-2. 情報収集する力》を発揮させ、語彙能力を高める努力が必要であると結論づけている学生もいた。《C-3. 自分にできることは勉強》であると気づいた学生は、今後の学生生活に生かしていくと決意を表明していた。

(2) 助産師：職業選択の広がりに影響を与えた気づき

① 助産師になるには看護師免許を持っていることが必須となっていることは知識として知っていたが【D. 助産師に求められる資質は看護師にも求められる資質と共通する】という実感はなかったようで、特別講師の聴講した後に《D-1. 助産師の基本は看護にある》と、再認識していた。「看護者として働くことは患者さんの命を預かるという意味であるため、自分に正しい知識が身につい

ていないと、患者さんの命を脅かす可能性があります。」と述べ「D-2. 正しい知識があることで人の役に立てる」という気づきを得た。

- ② 《E-1. 助産師の役割》の話にでてくる母親の話聞くことは、学生にとって大きな刺激となった。《E-5. 虐待を生む悲しい現状》《E-3. 戸籍のない子どもの存在》という状況があることに「なぜ自分の産んだ子どもをいじめることができるのか理解できませんでした。理解したくありませんでした。」と憤りを感じている。「先生は虐待をする母親の気持ちがわかるとおっしゃっていました。その言葉を聞いたとき、信じたくありませんでした」と、子どもを虐待する母へ共感する言葉を発した講師に対し反発を感じた様子が見られた。しかし、母親を支える第三者の存在がいないことは母親の不安やストレスの増大につながることで、苦しみを誰にも相談できない母親は苦しみに耐えかねて、子どもに対し虐待してしまう現状があるという新たな知識を得たことで《E-2. 助産における看護は出産時だけではなく幅が広い》《E-4. 母親の不安に寄り添う》ことの大切さを知った。これらのことから「この気づきは私にとって本当に大切な体験となりました」と《E-4. 物事の捉え方の変化》が芽生え《E-5. 助産師に興味》《E-6. 助産師の仕事に心うたれた》【E. 今まで知らなかった、見えなかった助産師の職務、そこから得た学び】と助産師の仕事に対し、関心度が高まっていた。

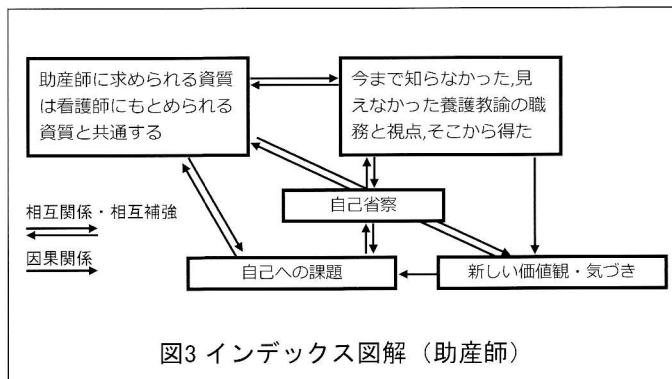
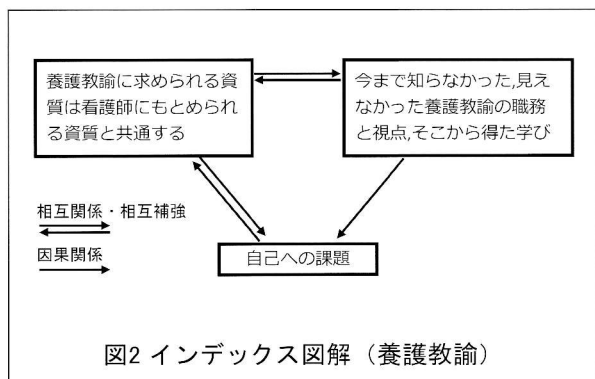
- ③ 学生たちは、講師のナラティブを聴講することで【F. 新しい価値観・気づき】を得た。《F-2. 虐待を生む現状へのいらだち》を感じながらも、なぜそのような現状が起こるのかを知ることで虐待児童の母に対し抱いていたマイナス感情は変わらずあるものの、その母も看護者が理解してあげるべき対象者であるという気持ちに変化している。これを《F-4. 物事の捉え方の変化》として解釈した。講師の投げかけた『優しさとは何だと思うか』という質問に対し、それぞれが《F-3. 優しさの意

味について》考えていた。講師の思う優しさの解釈を聞いた学生は今まで「人の気持ちをわかってあげること」が優しさだと思っていたが「相手のことを知りたいと思いつけること」「これが本当の優しさなのだ」と自然と心にしみました」と受け止めていた。

- ④ 【G. 自己省察】については、学生自身が学生生活を振り返っている項目を共通性として捉えた。「みんなと違って、将来の夢やなりたい職業がなく悩んでいた時に母に勧められてなんとなくこの大学に入ってきた」「とりあえず入れるところで選んだ」など、《G-4. なんとなく看護職を目指したため看護に対する意識が曖昧だった》。と答えている学生がいた。また「第一志望ではない大学だということもあり、モチベーションがあがらないままだった」など、不本意入学により進路に対する揺らぎが生じている記述がみられた。しかし、講師の話聞くことで《G-2. 自分自身への甘え》や《G-1. 親への感謝不足》があったと、自己を振り返るきっかけになっていた。同様に、今のまま努力をしない生活をしていたら誰かが自分を信頼し、相談をしてきたとしても《G-3. 力量不足》で相談に乗ってあげることとはできなと感じ「これからの大学生活を充実させたい」と気持ちの変容が見られた。

- ⑤ 看護入門の講義を通し、希望的な言葉を発するに留まらず、明確な意思表示をするように指導してきた。そのためか《H-1. 経験を積む》《H-2. 物事を結びつける思考力》《H-3. 勉強を頑張る》《H-5. 覚悟をもつ》など【H. 自己への課題】に対する記述が多く見られた。「私は苦手だと感じる人に接するとき、先入観を捨て、優しさをもって接することをしていく」と《H-4. 先入観を捨てる》ことを目標に掲げる学生もいた。

以上のように養護教諭は3グループ、助産師は5グループに集約し、それぞれのグループの関係性を図解化（図2・図3）した。



Ⅳ 考 察

今回、ナラティヴ聴講を聴講したことによるキャリア選択の広がりという視点で分析を実施した。大学に入学してくる目的は人それぞれである。明確な目的がある者もいれば、不明瞭なまま入学してくる者もいる。本研究において、進路に対する揺らぎがある者は、学業に対し積極的になれないことが示された。生駒は「進路選択の初期から自己の興味、関心、能力などにこだわりすぎて、選択の幅を絞りすぎることに警鐘を鳴らしている。その上でキャリアデザインへの展望は大きく広げておき、好機が訪れたら、行動できるよう準備を整えておくことが必要だ」と述べている。⁹⁾ このことから、キャリア教育に携わる看護教員に求められることは、看護職の職務内容や多岐に渡る看護職のキャリアデザインの現状について学生に情報提供し、明確な目的意識・覚悟を持ち学習に望めるように支援していくことである。同時に、柔軟な専門性 (flexspeciality)¹⁰⁾ を教育課程編成や、職業キャリア形成を通じて実現していくことが求められている。

本研究で調査対象とした看護入門では、2つの専門職以外に保健師・認定看護師についても講義を行っている。しかし今回は、講義前後の意識変容に関するアンケートを実施した2つの専門職のみ研究対象としたが、学生がどの専門職の、どのような話に関心を抱き、意識変容につながったかを分析するためにも、その他の専門職においても更なる調査が必要であると考ええる。

謝 辞

調査にご協力いただきました対象者の皆様に御礼申し上げますと共に、研究対象となった看護入門の学習効果をあげるために特別講師の采配を担って下

さった小湊博美教授に心より敬意の意を申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省：キャリア教育・職業教育のあり方について (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1266425.htm)
最終閲覧日 2017.10.03
- 2) 西村美八他：看護学生におけるストレスとコーピングの関連性の検討．日本公衆衛生学会総会抄録集 75：547,2016
- 3) 樋口健：増加する看護系学生－その悩みとは何か－．ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室主任研究員，2014.02.12 掲載 (<http://berd.benesse.jp/koutou/topics/index2.php?id=4031>) 最終閲覧日 2017.9.6
- 4) 文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会，2011.10 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf) 最終閲覧日 2017.10.8
- 5) 東京都教育委員会：自尊感情や自己肯定感に関する研究．教育庁報 No.598：6,2013
- 6) 下村英雄：若年者の自尊感情の実態と自尊感情等に配慮したキャリアガイダンス．JILPT Discussion Paper Series 11-06,2011
- 7) 抱井尚子，亀井智子：混合研究法で看護研究が深くなる．週刊医学会新聞第3163号，2016
- 8) 田中博晃：KJ法入門質的データ分析法としてKJ法を使う前に．外国語教育メディア学会関西支部メソドロジー研究部会2010年報告論集：17-29,2011
- 9) 生駒俊樹：実践キャリアデザイン．第1版，ナカニシヤ出版，京都，2010
- 10) 本田由紀：軋む社会．第2版，双風舎，東京，2008

Evaluation of Career Education at the University

With a Focus on the Altered Consciousness caused by listening to professional experience stories

Kyoko Muta

Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition,
Kagoshima Immaculate Heart University

Key words : narrative, career education, text mining, Mixed Methods Research,
Altered Consciousness

Abstract

In this school, the introduction to nursing is placed registration for Subjects on first year.

The introduction to nursing is aimed to have University faculty in our school and an ex-student of this school come and be a teacher as guest lecturer at a following the purpose.

- 1) Talk about the process until career choice, content (narrative) and future design. Students audit the lecture which talk about process until career choice, occupation content and future design
- 2) And then considering career design in nursing.

However, it was the agenda what kind of learning effect was obtained before and after attendance actually. Objective of this study was to make it clear that the spread of the student's carrier choice in auditing narrative attendance. A questionnaire was conducted on 36 students in our nursing course before and after that lectures.

Research method

- 1) Analyzed the description contents of the report of looking at the lecture which were written by students.
- 2) Evaluated at 5 stages about the degree of interest of a prior and a posterior to nursing teacher and midwife by questionnaire which consisted of one item.

Differences in evaluation between a prior and a posteriori was examined by within group comparison of change using Wilcoxon test. The evaluation result of nursing teacher and midwife: The score of both of them rose predominantly together. Analysis of the lecture after the report: I analyzed all of the report with text mining, and the result was used in complementing way and the mix research method which put KJ method into effect was adopted. The students realized that a carrier as nursing work wasn't only one way. And, they got knowledge and information the process to carrier up and root from the "narrative" of the third person. And then it led to the spread of their carrier choice.

The spread of their carrier choice by Narrative auditing reflected on the posture confronted with academic life, it became a motivator of the ability necessary to nursing work. In the future, the result showed that it was the essential opportunity to consider about the way of student nurse as practice
